

**R09b**                    **ミリ波における Sagittarius A\* のフレア II**

宮崎 敦史 (国立天文台野辺山)、堤 貴弘 (CfA)、坪井 昌人 (茨城大理)

Sagittarius A\* (Sgr A\*) は、我々の銀河系中心核であると考えられているコンパクトな非熱的電波源である。この Sgr A\* のセンチ波での変動はよく知られているが、これは星間シンチレーションによるものが支配的であると考えられており、Sgr A\* 固有の変動を知るには星間シンチレーションの影響の少ないミリ波での観測が重要になる。しかし、ミリ波での変動は Wright & Backer (1993) により 1 例報告されているのみで、まだ確立されていなかった。また、Sgr A\* は広がった強い HII region (Sgr A-West) に内包されており、干渉計の高い分解能で観測する事ではじめて Sgr A\* のみを分離することが出来る。

我々は、野辺山ミリ波干渉計 (NMA) を用い 1996・1997・1998・2000 年の 4 シーズンにわたって、Sgr A\* のフラックス密度のモニター観測を行ってきた。この結果、1998 年 3 月及び 2000 年 3 月において Sgr A\* がフレアした事を確認している。1998 年度秋季天文学会 (R33a) においてすでに 1998 年 3 月のフレアについて報告しており、今回は 2000 年 2-5 月の観測結果について報告する。

今シーズン 2000 年の観測において、1998 年に引き続き再びフレアを観測した。2000 年 3 月の約 1 ヶ月間の間に 2 度のピークを観測している。100 GHz 帯における観測された最大のフラックス密度は 3 月 21 日で、1998 年のフレアよりも明るく約 3 Jy 程にまでになったが、翌々日 (3/23) には 2 Jy 以下にまで下がっている。今回、1998 年より密な観測ができた一方、フレアの期間は長く、より激しい複雑な変動をしていることが分かった。1998 年のフレアもこの様な一続きの変動の一部を見ているのかもしれない。